

市史編さんについて

レポーター 齊藤初子さん (鶴ヶ曾根)
話し手 遠藤 忠(市史編さん室長)

誰しも自分の生活の基盤としている、この八潮市がどのように形成されてきたか、文化遺産はどのように保存したらよいか、また八潮市に生成した文化を正しく理解したいと、思っていることでしょう。今月はこのような疑問をいつも抱いていた、齊藤初子さんに市史編さんの現在の状況から将来の展望までをレポートしていただきました。



齊藤初子さん

◆ 私の考え ◆

貴重な文化財を後世へ 伊本阿久里さん 南川崎370

「古きをたずねて新しきを知る」という言葉のもつ「味」を皆さん考えてみてください。そして一つでも多くの貴重な文化財を大切に保存してもらいたいものです。

街道沿いにたたずむ一体の石塔、その温かい素顔、過去数百年もの風雪に耐えてきた石仏が無言の歴史を語りかけている様に思います。

押し寄せる開発の波に流されかかっている貴重な文化財を守り、これを後世に伝え、今後の私たちの飛躍の基とせねばなりません。

幸いに八潮市は市長さんの方針により近郊市町村より早く文化財の保存と記録に努力したため、数多くの文化財が残されたことは、市史編さんの皆さんの努力と感謝しています。

金銭に換え難い貴重な文化財を永久に保存し、後世に伝えるためにも、一日も早い資料館建設を希望し、その実現に期待しています。

歴史を知る喜び

栗野儀三郎さん 大曾根1137

20年前八潮市に住居を定めて以来、この地のもつ歴史の流れを古老から聞き、興味を持ちました。

八潮市の歴史的な発展過程を知りたいと思っていたところ、八潮市史編さんを知り、以後この貴重な資料の満載された市史資料を手にする度に、これに携わった方々の苦勞に感謝を申し上げます。

雑事におわれてなかなか読了することができませんが、折にふれ開くページの中から八潮の歴史の一端を知ることの喜びはまた格別です。

現存している古文書などを見るにつけ、当時の人々が、将来のためにと配慮された努力がうかがい知れます。

今、私たちが未来に向って努力する人間の営みを後世にいかにつけてゆくと考えるとき、文化遺産としての資料館の建設を願う一人でもあります。

スタートは 都市化の歯止め

齊藤 市史編さん事業はいつごろ、何の目的で開始されたのですか。

室長 昭和三十一年に三カ村が合併して八潮村ができました。三十九年に町制、四十七年市制と八潮市は全国一の速さで村制から市制になった自治体なんです。しかしそのため急速な都市化にもなつて古い建物を壊すとか古文書などの散逸がめだつてきました。これに歯止めをかけるためこの事業が昭和五十年にスタートしました。齊藤 これまでにどのような本を出版してきましたか。

調査報告書、それに研究報告書を出しています。本編の八潮市史はこれまで六冊の配本を数えています。今回頒布された民俗編は市民生活を基にした、大正・昭和前半の六十歳以上の年長者の方々の生活経験を中心に書いたものです。

八潮の昔からのしきたりや慣習などを分かり易く紐解いていきます。これらの本は図書館などの市内の公共施設に常設してあります。

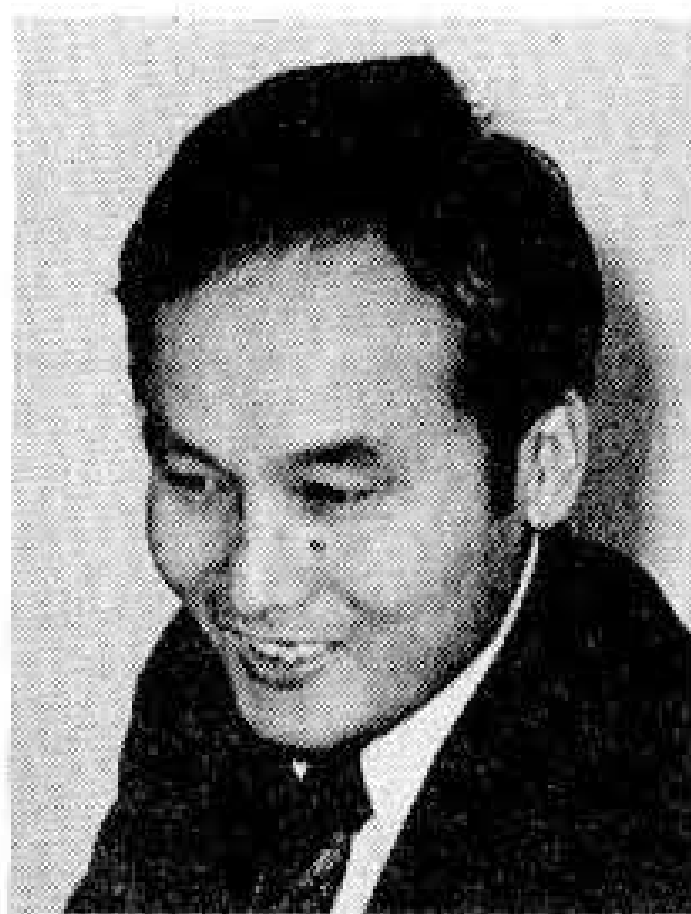
齊藤 市史を読んで感じたことなんでしょうが、ちょっと難しい気がします。子供向けの市史やガイドブックなどを出版することは考えていますか。

子供向けの市史を

室長 専門的な言葉で書かれていますので、かたい感じがすると思われまふ。調査中心なのでどうしても専門用語になってしまいます。

小学生向けの八潮の生立ちや中川の歴史散歩などのガイドブックをこれからつくる予定です。

齊藤 今まで集めてきた資料はどうなっていますか。



遠藤 室長

室長 市史編さん室ではこれまでにたくさん資料を集めています。

この資料は、諸家文書、行政文書、民俗資料に分けて保存しています。諸家文書は約二万点、民俗資料は五千点、そして行政文書は七千点で未整理なものを含めると、二万点にもなり数の上では県内の市町村で一、二番だといわれています。

齊藤 私の家にも古い農具がたくさんありますが、これも資料になるのでしょうか。

室長 八潮の生立ちを知るうえで、市民生活の民具をたくさん集めています。

皆さんが生活されている八潮市がどのように形成されてきたか、歴史的特質を知るうえで大変貴重な資料になります。もし処分されるようでしたらご寄贈願います。

楽しく活用できる 資料館に

齊藤 資料の保存はどのような方法で保存しているのですか、また資料館をつくるようですが予定は。

室長 現在、室では文書庫、民俗資料庫で保存していますが、両庫とも足の踏み場もないほどいっぱいなので保存庫の必要性に迫られています。

市ではこの膨大な資料を保管する資料館を建設する予定です。用地は本年度中に購入することになっています。開館日についてはいつになるか決っていませんが、市史編さん事業終了後には、資料の移管ができるようにと計画を立てています。

資料館は八潮市の生立ちを一目で理解でき、市の行政がたどった道のりがよく分かり、また子供や年長者が一緒に楽しく活用できる施設にしたいと考えています。そのため本年度は資料館開設準備委員会の委員十五名が委嘱され、資料館に関する審議をしていただいています。